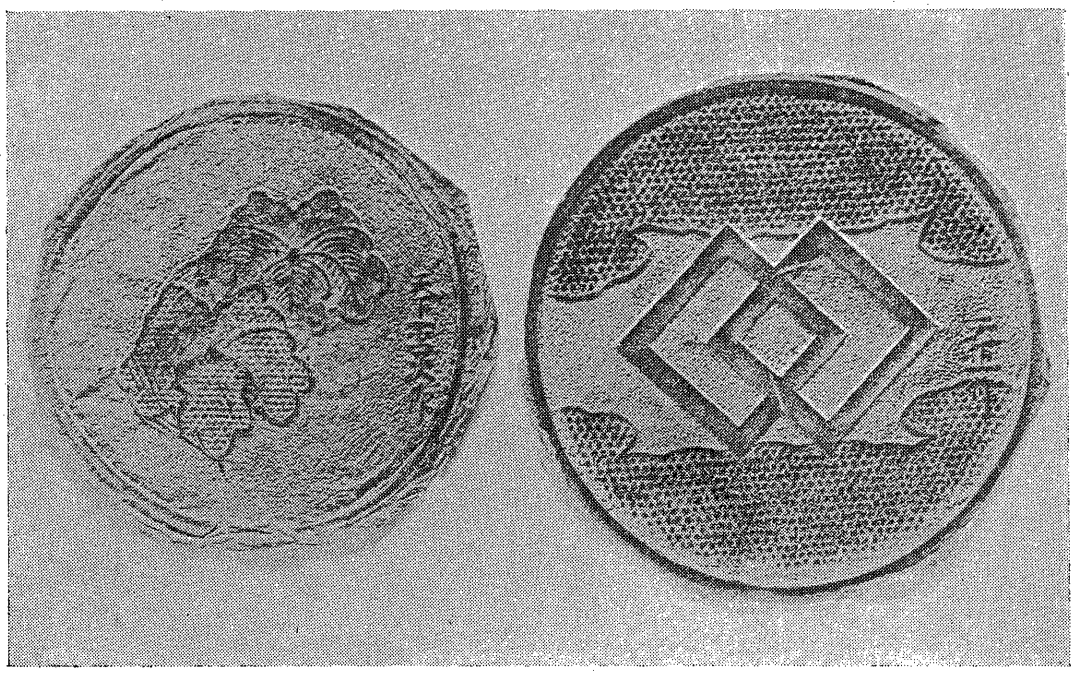
慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	安南發見の和鏡
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.2 (1934. 8) ,p.140(318)- 140(318)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19340800-0140

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

安南發見の和鏡



十七世紀初頭舳艫相銜んで印度支那沿岸を訪れた我御朱印船によつて多くの物資が該地に輸入せられたことを想像出來るが今日その片影を窺ひ得るものとして僅かに鏡、鐔、刀身、陶器、漆箱等が發見されるばかりである。此等の遺品の中アンコルワット發見の有銘鐔、東京發見の鏡などが河内のフイノー博物館に保存されてをり、最近かういふ種類の和鏡二面が某氏により日本に帶歸せられてをるが順化啓定（カイディン）博物館々長 Peyssonneaux 氏は最近 Bulletin des Amis du Vieux Hué, 20e année No. 4, 1933 に Carnets d'un collectionneur, objets nationaux japonais retrouvés au Tonkin, en Cochinchine, au Cambodje, en Annam, et provenant des anciennes Colonies japonais en Indochine なる一文を掲載し、中に七面の和鏡を紹介されてをる。その中六個は著者の藏品で一面はカディエル師の所藏である。全て中部安南から發見されてをり、從つて會安やツーランを經て輸入せられたことが想像せられる。上に掲げた拓影はペ氏の論文中になきもので河内極東學院安南拓本八三六三、八三六四番として保存せられるもの、目錄に廣南省會安鋪日本鏡架面二片、天下一作、天下一吉次作とあり、發見地は恐らくフェイホらしく從つて同地を經て輸入せられたものであることは疑ひを入れぬ。ペ氏の前文二六九頁に Eberhardt の「安南案内」Guide de l'Annam に附近の Cho Duoc 運河で十七世紀に日本人の作つた木の家あり、理事官の Rougier がそこで十五世紀の武士の名族の記號ある二面の cuivre ciselé を發見したとあるが、サレー氏の搜査によるとそんな運河もそんな家も存在せぬと書いてある。予は昨夏此處を過ぎた際フェイホの理事官に其事を敎はり探索しやうとしたが時間がないので果さなかつた。後訪者の調査を待つ。なほペ氏の論文の出た雜誌は在河内ガスパードン氏によつて惠贈された。記して之を感謝する（松本信廣）。